

1 総合交通戦略の策定について

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
1	【三澤委員】 ・タクシーの位置付けは、公共交通として考えられるか。 ・市の要請で地域連携バスを担っているが、公共性が高いものと認識している。 ・タクシーの利用が多い時間帯は午前9時台で、高齢者の通院利用が多い。これは、路線バスの代わりとして考えられる。	【事務局】 ・現在の総合交通戦略は、過度に自家用車に依存しないことを目標としている。 ・以前は、タクシーは公共交通とは異なるという意見もあったが、現在は、公共交通の一部と考えている。
2	【高瀬会長】 ・タクシー会社は、利用の少ない時間帯にも台数を確保している。 ・これは、公共意識から行っていることであり、苦労の中、対応していることを認識する必要がある。 ・公共交通の認識は、すべてのタクシーが対象か。	【事務局】 ・他市でも、大半はタクシーを公共交通と捉えている。 ・一方で、バスや鉄道とは特性が異なるため、戦略上、分けられるところは分けて考えたい。 ・乗用も含めるのか、戦略策定の中で検討する。
3	【松島委員】 ・松本市は、周辺市村からの通勤通学者が多く、調査は重要と考えられる。 ・周辺の市村はどこまでが対象となるか。 ・公共交通や自転車を優先するエリアはどの程度の範囲か。すべての地域というのは難しい。	【事務局】 ・H20松本都市圏PT調査は、広域が対象であったが、今回は、市単独の調査であり、安曇野市、塩尻市、朝日村、山形村を想定している。 ・エリアごとのモビリティ水準や範囲は、戦略策定の中で検討するが、立地適正化計画の誘導区域が目安になると考えている。
4	【益山副会長】 ・PT調査は、WEB調査とする可能性はないか。 ・H20松本都市圏PT調査で、年代別の自動車保有率のデータがある。参考にされたい。 ・観光客、特にインバウンドの方で、自動車を使った移動が増えていると感じている。今回の調査に観光動向の項目を加えてはどうか。 ・市内の企業へ協力を依頼し、自動車から公共交通の利用やカーシェアなどへ移行する意識調査をしてはどうか。	【事務局】 ・WEB調査とする場合、WEBページやサーバ構築が必要となり、今回の調査規模では、郵送の方がコスト面で有利となる。 ・過去の調査を参考にしつつ、自動車保有や免許取得のデータについては、警察への依頼を検討したい。 ・観光客の動きは、R6年度に市の観光部局が実施している観光動向調査で補足する予定 ・企業への協力依頼について、戦略を策定する中で必要に応じて検討したい。

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
5	【近藤委員】 ・ P T 調査の中で、公共交通を利用しない理由など、意識調査の項目を設けてはどうか。 ・ バスの路線が少ない等、利用しない要因が分析できるのでは。	【事務局】 ・ 他の自治体で、類似する調査を行った事例があるが、周辺の公共交通の存在を知らない、最初から公共交通という選択肢が浮かばないといった回答が多かった。 ・ 調査内容を精査する中で検討したい。
6	【大川委員】 ・ 観光客の動向について、松本市は松本城と上高地が主要な観光地であるため、そこで調査することや、ホテルの滞在者へターゲットを広げることが考えられるのでは。 ・ 次期戦略のテーマとして、スライド P 2 0 にあるとおり、高校生や高齢者、観光客の視点が必要になると考えている。	【事務局】 ・ 観光客の公共交通利用を促進したい点は、以前から検討している。次期戦略の中でも要素として入れていきたい。 ・ R 6 観光動向調査は、主要な観光地で回答者の属性、一次二次交通手段などを調査しているため、活用できる見込み。追加で補足が必要であれば、別途検討する。 ・ 次期戦略のターゲットや方針は、今後ご意見をいただきながら検討したい。
7	【大岩委員】 ・ 全国の運転免許保有者数で若い層の自動車離れが進んでいる傾向がわかるが、松本市のデータを確認した方が良いのではないか。 ・ 松本市から就職で首都圏に出る場合、企業が免許取得を要件している場合もある。松本で取得してから出るケースが多いと感じる。	【事務局】 ・ 松本市の運転免許保有者数のデータを確認したい。
8	【高瀬会長】 ・ 上記データの人口は国勢調査ベース、運転免許保有率は住民票をベースとしている。 ・ 大学生など、住民票を移さないケースがあるため、100%を超える場合があり、数値の取扱いには注意が必要 ・ 実感としては、松本市の20・30代はほぼ免許を持っていると考えられ、保有率は90%を超えてくる中、誤差の影響が大きい。そこまで精度を求める必要があるのか疑問	【事務局】 ・ 松本市は、H 2 0 松本都市圏 P T 調査の他、R 1 松本市 P T 調査も実施している。 ・ 運転免許保有率に限らず、上記のような他のデータも使いながら実態を把握したい。

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
9	【新村委員】 ・首都圏の人が自家用車を使わないのは、公共交通の水準が高いことと、駐車場の費用が高いことが要因と考える。 ・松本市役所を含め、事業所に協力を依頼し、通勤の異動を捉えれば概ねの傾向が読み取れるのではないか。	【事務局】 ・意見のような調査を実施すれば、通勤の実態は把握可能 ・必要に応じて検討したい。
10	【新村委員】 ・P T 調査の返送先が都内の調査会社であることで、回答者の不安感を生みかねない。 【高瀬会長】 ・P T 調査を郵送で返すというのは、特に一人暮らしの方など非常に大変 ・今回の調査規模を考えると、回収率を高くしたいので、工夫されたい。	【事務局】 ・一般的な手法として、調査票に市長の写真やサインを入れるなど、市の調査であることがわかるような工夫を行う予定 ・加えて、6月の調査実施前に、様々な手段で広報を行い、回答者の不安感を除きたい。
11	【大池副部長】 ・以前はバスを使っていたが、現在は使わなくなった方を対象に、その要因を調査するものがあればいいと考える。 ・バスが不便になった、生活の形が変わった等、様々な要因が考えられ、戦略策定には、そういったニーズを反映する必要があると考える。	【事務局】 ・次期戦略には、可能な範囲でニーズを汲み取り反映したい。 ・調査の実施は、必要によって検討したい。
12	【益山副会長】 ・P T 調査のゾーン分けの考え方や、ゾーンごとに抽出率を分けて設定する想定はあるか。	【事務局】 ・今回の調査は、市内14地区でゾーン分けを行い、抽出率は市内で一定とする予定
13	【高瀬会長】 ・総合交通戦略の大きな方向性を議論するため、全体の交通実態を捉える目的でP T 調査の手法を取るという理解であった。 ・個別に観光や公共交通の話が出ていて、それら要素をすべてP T 調査に入れるということか。	【事務局】 ・P T 調査は、市内の移動全体を捉えることを目的としている。 ・調査票は、国の標準様式を活用し、必要な項目を追加してカスタマイズする予定だが、項目を増やすことで回答抵抗が増えるため、最小限としたい。
14	【高瀬会長】 ・事務局が今回の調査の概要や目的を明らかにし、別途活用するデータがあれば先に委員に示さないと、議論がうまくいかない。	【事務局】 ・次回、7月頃に予定する委員会で改めて説明する予定

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
15	【益山副会長】 ・ H 2 8 長野都市圏 P T 調査では、観光動向の調査を P T ではなく補完調査として実施している。	【事務局】 ・ 参考にして進めたい。
16	【大川委員】 ・ 次期総合交通戦略の策定は、今までの戦略をベースにしつつ、新たな要素を加えていくと認識している。 ・ そのうえで、次回以降の委員会では、新技術の活用や交通まちづくりといった部分をもう少し具体化していただければ、議論がしやすいのではないか。	【事務局】 ・ 将来像や目標設定は、今後、意見を伺いながら決めていきたい。 ・ 今回、資料で示したものはたたき台として考えている。 ・ 新技術は、自動運転や M a a S などがあげられるが、課題解決の手段として活用を検討したい。
17	【高瀬会長】 ・ 次回委員会の開催が 7 月だと、調査票発送後となる。 ・ 調査内容は重要であるので、事前に委員会に確認されたい。	【事務局】 ・ 調査票の案を作成のうえ、4 月頃に委員会を開催し、事前に確認いただくこととしたい。

2 令和 6 年度事業報告 資料配布のみ